

授業への携帯電話の利用をめぐる

明治大学
情報コミュニケーション学部
和田 悟

対象とした授業

- 情報コミュニケーション学部「情報倫理」
- 1年次必修 2単位 (2005年度は前期)
- 履修者数
 - 2005年度 約530名 (3クラスに分けて実施)
 - 2004年度 約480名 (2クラスに分けて実施)

利用したシステムについて

- 汎用のアンケートASPを利用
 - サーバーの開発・管理はしたくない。
 - 思い立ったときに、教員が個人で始められる。
- ASPの協力によるアンケートの実験サイトの利用(無料)
 - データ管理機能は最低限度
 - 結果のメール送信機能
 - 質問、選択肢の編集機能

携帯電話の利用

- 授業内での利用
 - 出欠管理
 - 即時アンケート
 - 学習項目についての注意喚起、問題提起
 - 授業評価に関わること
 - **小テスト、知識確認**
 - **メールによる質問受付**

出欠管理

- ある程度強制力の働く利用方法
- 考慮しなければならない点
 - 不正防止への考え方
 - システム的な対応を考えるかどうか
 - 授業内での質問などとの組み合わせによる対処
 - 携帯電話を持っていないものへの対応
 - バッテリー切れ、故障対応も含む
 - 500名 20名～30名

出席管理で用いたシステムの画面例

出席: Inbox

アカウント: swada

[ログアウト](#)

[情報の更新](#)

[フォルダ](#)

Inbox	198
ゴミ箱 [空]	1127
invalid	6
合計	1331

最大保存件数: 10000 件

[CSVダウンロード](#)

[このフォルダから](#)

[全てのフォルダから](#)

[編集ページ](#)
送信ページ/設定の編集

[送信ページ](#)
記事の送信用ページ

[閲覧ページ](#)
受信記事の公開用ページ

[ページ情報](#)

公開ページURLアドレス

送信ページ <http://www.cgi-maker.com/books/form/swada>

送信ページ (ケータイ) <http://www.cgi-maker.com/m/books/form/swada>

閲覧ページ 非公開に設定されています

*SSL (暗号化通信) をご利用の場合は「http://」の部分「https://」として使用してください
上記URLではSSLは適用されませんのでご注意ください

転送先E-mailアドレス [【設定の仕方】](#)

swada@isc.meiji.ac.jp

記事の投稿があった場合にメールが送信されます

リストが空の場合 メールは送信されません

設定が反映されない時は 一度 左メニューから情報の更新をクリックしてください

リストの一番上のアドレスがメールの送信元 (From) に設定されます

選択項目を / 198 件中 1 - 20 を表示

1 / 10 ページ <<前へ 123456789 次>>

<input type="checkbox"/>	日時	第1項目	第2項目	第3項目
<input type="checkbox"/>	05.10.20			
<input type="checkbox"/>	05.10.20			
<input type="checkbox"/>	05.10.20			
<input type="checkbox"/>	05.10.20			

出席

ID *

Name *

Specified Phrase *

[アンケートへ](#)

携帯出欠管理の意義

- 出席票管理の手間軽減
 - ASPを利用する場合、CSVを表計算ソフトなどで処理するスキルが必要。
 - より簡便にするには、大学のクラスウェブと結びつけるなどの開発が必要か。
- アンケート等の他の用途への利用への導入を容易にする。
 - 確認画面でのアンケートサイトへの誘導など

即時アンケートの意義(1)

- 教室内における匿名回答が可能
 - センシティブな問いへの率直な回答が得られる可能性がある
- 重要な学習項目に対して注意喚起ができる。
- 集計の面倒がなく、すぐに回答結果を表示可能
 - 他の学生がどのような考えを持っているかを違いに知ることができる。

即時アンケートの意義(2)

- 参画意識の向上
 - どのような意見が多数を占めるのかを知る
- 授業の見直しには役立つ
 - 発問は難しく、授業のポイントを明確に意識する必要がある。
 - 授業計画立案の材料として使える

即時アンケートの例

- 質問-選択肢パターンを予め用意

理解度アンケート

1. よく理解できた。人に説明できる。
2. 理解できた。何とか人に説明できそう。
3. 理解できたが、人に説明する自信はない。
4. 理解できているかと技術経験に関するアンケート
5. 何だか全くわからな

送信

1. できる。友だちに聞かれば教えることができる。
2. できる（と思う）が、他に教えることはできない。
3. 経験はあるが、できる自信がない。
4. 全くできない。または、全く知らない。

送信

集計表示(汎用フォームを用いた場合)



メールで送られる内容

汎用

1	回答数: 24 13.56%
2	回答数: 105 59.32%
3	回答数: 34 19.21%
4	回答数: 8 4.52%
5	回答数: 6 3.39%

和田悟

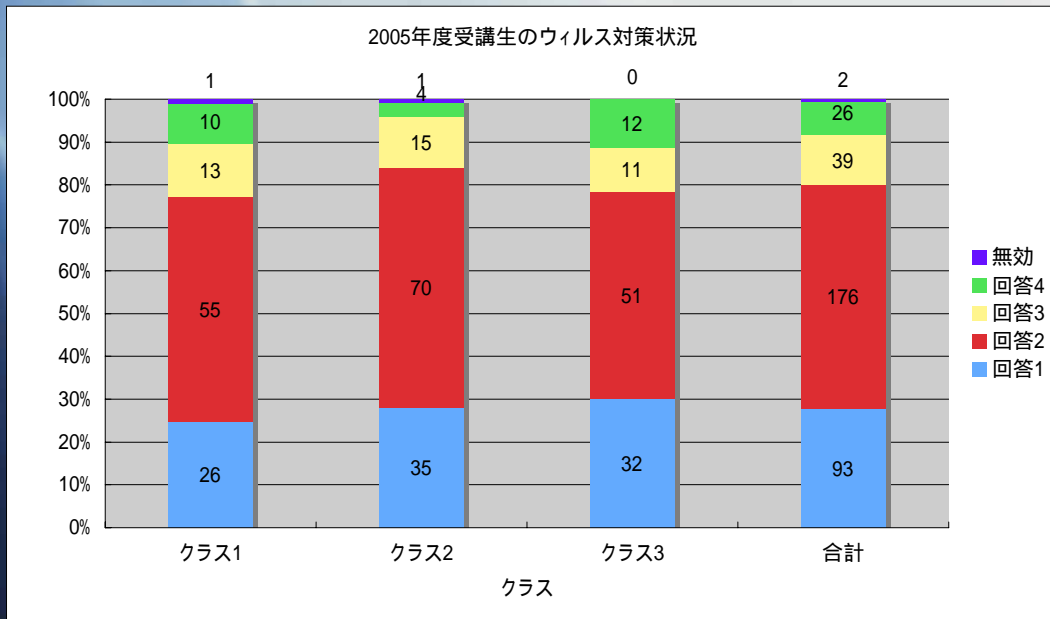
アンケート実施例

2005年6月20日 実施

自分自身のパソコンにウィルス 対策してますか？

1. ウィルス対策ソフトウェアを導入し、ウィルス情報もきちんと更新している。
2. ウィルス対策ソフトウェアを導入しているが(パソコンに最初から入っていた場合も含む)、ウィルス情報の更新についてはよくわからない。
3. ウィルス対策ソフトウェアを導入していない。
4. パソコン自体を持っていない。

アンケート回答結果



出席状況

受講者数(3クラス合計)	531人
平均出席者数	497.4人 (93.7%)
出席に携帯電話利用した人(出席者中の割合)	485.3人 (97.5%)

出席者と回答数

- 2005.06.20の出席者数：480人
- うち、アンケート回答数：336人 (70%)

(参考)アンケート参加状況 2004年度後期の授業

日付	9/29	10/6	10/13	10/20	10/27
1回目	177	157	177	126	111
2回目	-	-	-	104	92
携帯利用 出席者	211	204	196	187	209
1回目 参加率	83.9%	77.0%	90.3%	54.7%	54.7%

即時アンケートの難しさ

- 思いつきで質問を考えるのは大変
 - 質問が曖昧、説明不足、説明過多になりがち
 - 予想に反した結果 軌道修正が必要
- 予め準備した質問は、学生の反応次第で使えないことも多々
 - 関心を喚起出来ないまま、質問すると、参加動機を失わせてゆくかもしれない。
- 事前に余計なことをしゃべりすぎ(誘導)
- 参加人数を維持するのは難しい
 - 全員の回答を待てるわけではない(時間的制約)
 - 無記名式ゆえ、回答しなくてもペナルティはない。

自由記述利用について

- 他の事例紹介
 - 報告者は行わなかったが、他の教員の活用事例では、フリーテキストの入力を活用しているものもある。

自由記述利用の要件

- 入力されたメッセージに対して、教員がきちんと対応すること。
 - コメント集などを作成して翌週に全員に配布するなど。
- 授業内での質問に、メール等を利用する場合
 - 答える質問、答えない質問の選択基準を明らかにしておくこと

教室を越えた利用

- 携帯電話は、教室という場を越えて、いつでも・どこでも学ぶ道具として使えるのだろうか。

動機付けについて

- 中途半端な位置づけ
 - 自宅や学校ではPCが使える
- 通勤途中やすき間時間での学習
 - 電車の中でゲームに興じている若者は多い。
 - ゲームや一般のケータイサイトより、教科書や問題集を選ぶか？
 - 宿題として課すことに効果はあるか？
 - 資格試験対応など、利用者に強い動機付けがある場合に限られるのではないか？

作問のノウハウ

- 単純な質問から始める。
- 事実・行動から原因・要因への組み立て。
- 質問は1文完結でわかりやすく。
- 選択肢は長くても20字以内
(スクロールの手間をかけさせない)
- 設問数を絞る(10問強)
- 思考を要する質問の選択肢は、簡潔さ・正確さに留意し、内容・表現を特に慎重に考えよ
- 自由回答は内容を絞る

ケータイ・サイトの実例から 携帯に適したコンテンツを考える

NECモバイリングの「ケータイ サラダ」の導入事例紹介に掲載されている14サイトの状況は以下の通り。

	平均	最小	最大
全体文字数	309.1	196	538
概要説明	145.7	52	399
メニュー項目数	7.1	4	13

まとめ

- 携帯電話を利用すると、授業のみなおしが強いられる。
- 発問や発問方法に関するノウハウが必要。
- 携帯電話を予復習の道具にまで利用するには、携帯電話の特性に併せたコンテンツ作りが必要。